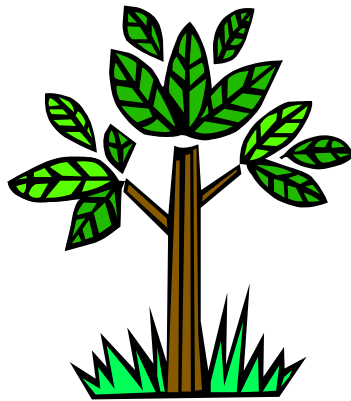


子どもの成長に
豊かな環境体験を



PLT (木と学ぼう)

ファシリテーター養成講座

2011年3月19～20日

PLT（木と学ぼう）ファシリテーター養成講座の記録

日時：2011年3月19～20日 10：00～17：00 12時間

会場：国際障害者交流センター（ビックアイ）

受講料：20000円 テキスト代：6000円

講師：国際理解教育センターERIC 角田尚子（かくた なおこ）

内容：6時間のPLTファシリテーター養成講座

2～3時間の幼児期からの環境体験指導者養成講座

を開催できる資格認定講習会

主催：えんぱわめんと堺

参加者：25名（被災地岩手、富山、静岡、山口、香川、大阪、堺など）

ERICから応援：角田季美枝（つのだ きみえ）

3月19日

10：00～12：00：共通基盤づくり

13：00～15：00：流れのあるプログラム体験

15：00～17：00：ふりかえりとPLTの方法論

<内容と流れ>

机を取り払い、椅子を持って輪になり座る

1. まず、東北大震災が起きて今日までの自分の感情、行動についてふりかえる
時間は1分間。ノートに書いてみる。
2. その時、大切にしたいと思った価値観は何？
子どもの中に育てたいもの、伝えたいものは何？1分間。
自分の生きていることを伝えるのが教育である。つまり、情報の伝達。
3. 傾聴（アクティブ・リスニング）
2人組みになり、話し手と聞き手に分かれる。話し手は、2分自分のことを話す。
聞き手は、質問はしない。心と体と頭で集中して聴く。質問の内容は、なぜ参加したか。
私が私としてしっかりしていること（自己理解）が参加するということ。
参加型学習は、この力（自分のことを伝える力）を育てる。
私がいればあなたがいて、みんながいる。みんなが学びあうためには、コミュニケーションスキルやルールづくりが必要。集中させるには、何分間で何個など条件をつけること。
4. 時間のエコノミー
人を否定しない・頭、体、心をここに置く・笑顔・先入観を持たない・相手を認める・
自分の思いを伝える場を持つ・共感して聞く・創造力を豊かに・違うところを大事にする・深く息を吸う・笑ってもいい・わかりやすいことばで・自分も相手も時間を大切に・同感できなくても相手の重みはそのまま認める・
5. 被災者と避難者（二者択一）に別れてブレーン・ストーミング
3人～4人グループをつくって話し合う。

被災者：

自分の状況がわからない（判断できない）・マスコミがうるさいでも取材しろ・冷静に⇨不安・逃げたい⇨ここで頑張る・衣食が不安・情報が無い・元気であれば周りのために何かしたい

避難者：

家族の安否状況を知る・どこへ逃げる・大切な写真・お金・公的な支援は？・足りなくないか？・助け合いが必要

受け入れる、支援するための 10 箇条：

被災者同士をつなぐ・チームで取り組む・「どうしたい？」と無理に話させないでメニューを提示・世代間や世代内の公平・できることからすばやく・役割分担・要望を聞く・心のケア・足になる・支援者のケア・公的な支援+自分たちでできること・コミュニケーションが大事…キーワードは、被害者化しない（エンパワーメント）ということ、でしゃばらない、普通の人として扱う、押し付けない、思い込まない

※今回の地震：宮城県は、都市部で阪神神戸に近い、ストレス強。岩手は、小さな地域コミュニティで活動、情報が入ってこない、子どもにも仕事を与えている、まだまだ入れる状態ではない、神戸の時全壊で一律 33 万円の支援、これって公平？

（昼休み）

6. アクティビティ：「まわりの音」「つぼみが開く」

諸感覚を磨く、四季折々の木を知ろう、PLT の CD を聴く（これは HP よりダウンロード可）

2 分間、目を閉じ耳を澄ます→それをサウンドマップにする→4~5 人で見せっこ音の役割とは何か？を問う

（存在感・何かわかる安心感・生きていることの実感・距離感・空気の伝達・緊張をほぐす・雰囲気づくり・心に作用するなど）

声って何？→言語、メッセージを伝える音

30 分屋外に出る→課題：「つぼみが開く音をグループで探す」13：30~14：00

それをあとでグループで表現する（体で音を表現する）

（研修室から屋外に出ると心がパーッと開き開放された。気持ちがいい。これってつぼみが開くってこと…笑）あくまでも花や木であることが条件（これを指導者がいいわすれた）つぼみの役割を押しさえないと別のものになってしまう

グループで発表：14：00~15：00

タイトルと表現する植物

ユキヤナギザイル（ユキヤナギの開花）・ささやき（コブシ）・こころのつぼみ（子どもの成長を写真として表現サクラ？）・たんぽぽ（コブシの開花）

意図開きとふりかえり

言葉の表現→声を取り戻す効果がある

ノートテキング（自分でノートに書いてふりかえり）

表現された音をあてっくする方法も・木のしくみを伝えておく。屋外に出たのならそこにある花を表現すべき・伝えたいことの種明かしは、評価につなげるために必要

良かった点：

システムが面白い・1つのものを作り上げる面白さ・組み立てや流れの妙・音から入る（感覚で）→共有（ことばで）→寸劇（体で）→ふりかえり（文字で）・つぼみという小さな命に気がつく・つぼみの生長と変化を表現するのは、すばらしいが難しい・

知りたい点：

評価につなげるために種明かしは必要・何で音？音以外の感覚は？

つぼみ教育は、こどものセルフエスティーム（自尊心）を高める



■ ささやき 1



■ ささやき 2



■ ささやき 3



■ タンポポ 1



■ タンポポ 2



■ タンポポ 3

7. PLT の学習法の特徴について：グループワーク：15：15～15：45

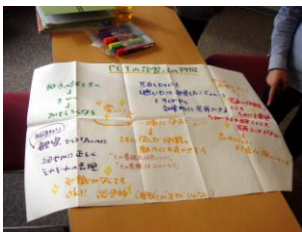
学習者の意識の流れに沿ったプログラム

経験学習→体験する→ふりかえる→一般化する→応用する

一般化は、先行知見によって豊かに。子どもの理解を豊かにする。

木のシステム、連鎖、相互依存

各グループの考えを模造紙にまとめる





8. 本のインタビュー：15：45～16：10

20分間テキストを流し読みし、A5用紙に学びたいことや優れているところを書いてそれを相手に50秒で紹介する。最低、3～4人と。

ノートテキング（自己評価）

9. 正確に相手の意見を聞く…傾聴

聞き手：1分30秒

話し手：できるだけ正確に聞く

1人で今日1日のふりかえり（相手に確認）

（1日目の終了後、17：00～19：00まで隣の研修室で交流会 1人3000円）



3月20日

10：00～12：00：アダプト・アクティビティ

13：00～15：00：アダプト・アクティビティ

15：00～17：00：ふりかえりとまとめ・行動計画

<内容と流れ>

机を取り払い、椅子を持って輪になり座る。今日は、アクティビティの実践。幼児期からの環境体験テキストを全員が体験する。

1. 実践～ふりかえりまでをチームで行う。

1 アクティビティ 20分、その後みんなで共有 10分…1 チーム 30分

昨日の2つは除外。残りのアクティビティ、1 チーム 3人程度で、やる順番はテキストの順。

11時から開始する。どこを選んでも自由。早いもの順にスタッフを決める。

- ・ ものの形 (かおる・はやま・やっちやん)
- ・ 木に触れよう (こまっちやん・ありた・てる)
- ・ わたしたちみんな木が必要 (すもも・とし・たこ)
- ・ 秋の知らせ (なおちゃん・なかさん・はしもと・くりもと)
- ・ 冬の常緑樹 (ふじた・ぐー・あり)
- ・ 里木 (ひげおやじ・さめちゃん・さっちー)
- ・ 生息地としての木 (たにぼん・ひろっち・つのだ)
- ・ 木に三回乾杯しよう (いずみ・いまっち・もんちゃん・こうた)

注意事項：

基本は、採取させない・かぶれるもの・みんな同じ感覚ではない・終わった後、手を洗わせる

評価の観点：

楽しいか？・夢中になれたか？・体が動いたか？この3つ！

危険予知トレーニング：

場面の状況を絵で伝える・子どもに考えさせる・グループで行動する・戻ってくる場所を決める・ゆっくり歩く・時間や行動範囲を決める・決めたら守る・笛が聞こえたら集る(ルールづくり)・大事なものは持っていく(貴重品)・足元や足回り・トイレは済しておく

<ものの形>11：00～11：35

- ・ グループで1枚色紙を選択させ、好きな形の葉っぱをその上に書く。
- ・ 条件は、グループで選んだ色の葉っぱ1枚、その形の葉っぱ1枚を採取して戻る。
- ・ 11：25からグループ毎に発表。見せっこ。
- ・ 感想：実際の色と人工の色とは違う・内と中では色が違う・緑は全て違う・かたちも

さまざま・

- ・ 最後に元の場所へ戻す。
- ・ ふりかえり（アイデア・プール）：エリアと時間をキッチリ示す・みんな同じでも違う・個々に発表するのではなく一箇所に集めればいい（輪になる）・仲間探し（分類）・ジャンケン



<木に触れよう> 11:35~12:10

- ・ 五感の中から「さわる・ふれる」を使う。
- ・ 屋外に出て 10 分間、グループのお気に入りの木をさわる。楽しむ。
- ・ 11:48 屋内に戻って、触れた木を各人が絵と文字で A4 用紙 1 枚に表現する。3 分間。
- ・ みんな、木に触るときどこを使った？手のひら、腕、指。
- ・ どんな感じがした？人によって感じ方が違う。
- ・ ふりかえり：絵を描かせるはどうか？苦手な子は？文字書けない？感覚を音（声）で表現してもいい・リスクマネージメントが必要・ことば銀行のカードをつくってそれを選ばせることも・木肌でなくとも実や種でもいいのでは・

<わたしたちみんな木が必要> 13:00~13:35

- ・ 外に出て、落ちている葉っぱ、実、枝をグループで 1 つずつ拾って持ち帰る。
- ・ 持ち帰った葉っぱ、実、枝でリズムをつくってもらう。
- ・ 紙袋、ピン、カン、廃プラ容器などを用意。
- ・ できたら各グループで鳴らしてみ、1 つのリズムをつくる。
- ・ リーダーがグループ毎に鳴らすように指示。
- ・ 全グループが鳴らし終わったら、指差したグループが鳴らし、全体へ広げていく。
- ・ 最後に全員で鳴らして終わる。
- ・ ふりかえり：せっかくだから廃プラなど使わないで自然のままで楽器をつくらせては・木の揺れる音を表現しても・木の役割の中に楽器がある、拍子木なども暮らしに結びつく・音遊び



<秋の知らせ>13:35~14:00

- ・ グループにドングリを2~3個配布。ハサミ1個。
- ・ それを割るように指示。腐ったものやカビてるものもあり。
- ・ ドングリを観察した感想を問う。
- ・ 外が固く、中は瑞々しい・殻を割るとしわがある・クリみたい・実は2つに割れる
- ・ 個々にハンカチなど長い布を出すように指示。PLTのCDをかける。音に合わせて葉が落ちるようすを表現する。全員一緒に。
- ・ ふりかえり：幼児期にハサミは危ない・リスクが高い・なぜ実がなるかの説明が必要・紅葉や黄葉の話でもよい・秋の知らせを感じさせるものがよい・葉を落とすということの説明・



<冬の常緑樹>14:00~14:30

- ・ グループにA4用紙1枚配布。冬のイメージの絵を描いて。
- ・ グループで見せっこ。発表。
- ・ 雪持ち林の話。合掌造りなどの集落の背後にはトチ、クリ、ケヤキなどの雑木林があり、雪持ち林として雪崩を防ぎ、多くの恵みをもたらしてきたのです。斜面の木は、雪の重みで根が曲がる。これを建築材などに利用。富山から来たひげおやじさんの生活に根ざしたことが聴けた。全グループが発表する。
- ・ 次に布の袋に木の実や松の葉などを入れたものを配布（ミステリーボックス）し、何があるのか手の感触で発表。ザラザラ、ベトベトとかツバキの実の殻とか意見が出る。みんな常緑樹。
- ・ 日本には、いろんな冬があり、さまざまな命が息づいている。
- ・ ふりかえり：裸の木とか、針葉樹、常緑樹に直接触れる・落葉樹を表現させる・冬のイメージ画とミステリーボックスが繋がらない、つながるとよくなる・面白かったのは、雪持ち林の話。日本各地の冬景色の写真があってもいいね・クリスマスツリー

(冬の常緑樹)とか的を絞っても・照葉樹といってもわからない。柿とか栗とかわかりやすい木で説明・



<里木>14:30~15:00

- ・ 屋外に出て、グループでお気に入りの木、気になる木を探す。
- ・ なぜ、その木を選んだのか、どうしてあげたいかを発表。
- ・ その後、グループ1人ひとりにハガキ大の用紙を配布し、その木のイメージを一言で表す言葉を書く。
- ・ 書いたら、「未来に向けたことば」として、グループの個々のことばをつなげて一文をつくる。それを発表。「けなげに」「頑張る」「一本の木」
- ・ ふりかえり：その木に対する個々のイメージは違うので、同じ木でやってもいいかな・お気に入りの木の葉をこすりだして持ち帰る・木を見分けられる感性をひきだし・五感で探させてもいいのでは・ネイチャーゲームの手法



<生息地としての木>15:00~15:30

- ・ 屋外で、お気に入りの木を見つけて、その木に関する命のつながりをA4用紙に書いてもらう。グループに1枚。木の表現は自由。その一場面を切り取り、体で表現してもらう。
- ・ 屋内に戻り、ダンボール、毛糸、クレヨン、カラーペンなどで自由に製作。
- ・ 発表は、その絵をかざしてどの場面かを説明し、表現する。瞬間芸。
- ・ みんなの木にはさまざまな命とのつながりがありました。その木がなければ暮らして

いけなかったり、その木の影響をうけるということもある。剪定という私たちの暮らしともつながっていましたね。私たちは、さまざまな命の恩恵を受けて暮らしているということを忘れないで。今度は、みんなの場面をつなげて1つの物語をつくってもいいですね。

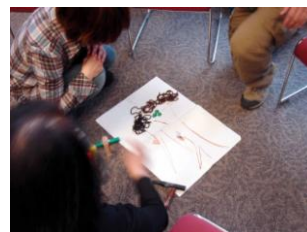
- ・ ぶりかえり：制作することに熱中してた・時間配分を間違えた・表現したことを記録する必要も・盛り込みすぎか・はじめに痕跡を見せることも必要・生息地の説明が要る・観察させる時間をとる



■イラスト



■ダンボール



■毛糸



■1シーンの表現



<木に三回乾杯しよう> 15:30~16:00

- ・ 私たちが使う木でできた道具や木からとれる食べ物は？
- ・ カナヅチ、鉛筆、割りばし、ティッシュ、ダンボール、新聞紙、炭
- ・ クリ、ミカン、リンゴ、ザクロ、レモン
- ・ これらは、暮らしに欠かせない。どこから持ってくる？森の恵み。
- ・ これから木に感謝して木の感謝祭を行う。
- ・ その道具をグループでつくろう。面、鳴り物、幣（ぬさ）など。
- ・ CDをかけ、音楽に合わせて、輪になり各グループが順に前に出て踊る。
- ・ 最後は、全員輪になって踊る。
- ・ ぶりかえり：新興宗教か・全員で踊るのはいいね・童心にかえった（みんな幼児の役）・導入部に工夫が欲しい・道具だが木や葉っぱなど木をくっつけるといいよね・木の効

用を説明する図が欲しい・木陰とかもわかりやすい・



■狂喜乱舞、つくった楽器なども鳴らしながら…



2. 全体のふりかえり：ノートテーキング

個人で今日1日を振り返りノートに記す。

幼児向けなので楽しいが、イラストやことばのカードなどビジュアルな仕掛けが必要。

目線をおろして楽しむこと。ことばの意味もわかりやすいものにしなければと思う。

評価の3つの観点は体験できた。

このプログラムを教える時のことばかけなどに気をつけなければならない。

木を知ること。木のしくみを理解しておくこと。これをどうおろしていくか。ここがミソ。

3. ファシリテーター認定書の授与

テキストの最後にある登録証を本部に送り、登録完了となる。

ファシリテーターハンドブックに書かれている要領で講座を開催できる。

16:30 全員で記念写真を撮る。

16:30~16:50 全員で役割を分担して研修室の片付け。

17:00 解散。帰路に着く。

(記録：H・Inoue)